

ねいの里 ホオホオニュース



平成23年度 生き物ふれあい自然塾 行事予定

月日	テーマ	場所	定員	時間
5/15(日)	バードウォッチング (富山県・日鳥連 富山支部 共催)	野鳥の園・古洞池	なし	8:00~12:00
5/21(土)	海浜釣糸清掃 (日鳥連 富山支部 共催)	新湊漁港	なし	9:00~11:00
6/19(日)	囲炉裏とハイケボタル観賞 (自然塾の会共催)	ねいの里	なし	19:0~20:30
8/21(日)	クツムシを愛でる(自然塾の会共催)	ねいの里	なし	18:30~20:00
10/10(祝)	キノコ狩りとキノコ汁を愛でる	ねいの里	300名	9:00~13:00
1/4(水)~6(金)	春の七草を愛でる(七草の頒布) (自然塾の会共催)	ねいの里	200セット	9:00~17:00
3/11(日)	春一番の生き物を探す	ねいの里	なし	9:00~12:00

生き物セミナーとビオトープづくり

4/22(金)	早春の生き物学習 (対象 大学生)	定員: なし 場所: ねいの里	9:00~13:00
7/15(金)	生態系と種の多様性 (対象 大学生)		9:00~13:00
2/5(日)	動物の体を知る・愛でる (自然塾の会 共催)		9:30~13:00
6/18(土)	開園30周年行事「里地里山の生物多様性を目指して」		9:30~14:00

特別展示

テーマ	期間	テーマ	期間
日鳥連富山県支部写真展	4/4(月)~ 5/13(金)	ねいの里キノコ写真展	9/1(木)~ 11/18(金)
愛鳥ポスター展	5/21(土)~ 6/20(月)	いちよん会 自然写真展	11/20(日)~ 12/11(日)
環境月間ポスター展	7/13(水)~ 7/26(火)	春の七草実物展	12/12(月)~ 1/16(月)
自然保護協会環境写真展	8/1(月)~ 8/31(水)	ネイチャーフォト展 自然塾の会写真展	12/16(金)~ 3/31(土)
県内のカブト・クワガタ・淡水魚展	7/15(金)~ 8/31(水)		

ナチュラリスト関連行事

7/10(日)	ナチュラリスト養成講座(対象:ジュニアナチュラリスト)	ねいの里	9:00~16:00
9/3(土)	有峰の自然を探る(アサギマダラ等調査)	ねいの里	9:00~17:00
8月~9月	ロシア渡り鳥交流	ロシア沿海州	

里っこ山っこにっこに

私のジュニアナチュラリスト活動

垣地 康平 君 (高岡工芸高校2年)



私は最初、自宅付近の乱橋池のトンボに興味があり、小学校の頃から毎日通っていました。その中でトンボや自然すべてに興味が出てきました。ジュニアナチュラリストという自然と関わりのある活動を知り、ジュニアナチュラリストになりました。最初の活動として、立山の環境の講座を受け、そこにはふつうの学校の授業ではまずは受けられない立山のまた、富山の素晴らしい自然を知りました。特に印象に残っているのは、立山で1泊した活動です。立山では、乱橋池ではまず見る事の出来ないカオジロトンボや平地では見ることが難しい鳥が見れたことも、いい経験になりました。

去年は、有峰に2日間の日程で行きました。そのときは、夜にライトトラップを仕掛けて、蛾や甲虫の採取を行いました。すると、蛾がたくさん集まってきた中で、とても美しい羽根をした蛾発見!! 「きれいな蛾も来る」という話を聞いたので、期待を胸に持っている、大きな影がライトに照らされて飛んできました。確認に行くと、話しに聞いた蛾「オオミズアオ」でした。その羽根は美しい黄緑色をしていて、蛾といえばあまりいい印象を残さないという私の概念を覆してくれる優雅できれいだった事を思い出します。

このようないろいろな活動を通して、多くの自然に関する知識を得たいと思いました。また、この活動で得た知識を多くの人と共有できたらいいと思います。

活動をふりかえり

◆ 生き物との共生セミナー「動物の体を知る」 2月 記: 吹上 露 (Jr ナチュラリスト)

僕は、約四年ぶりにJrナチュラリストの生き物セミナーに参加しました。何を隠そう僕は受験生なのですが今回の活動内容が野生動物の解剖と聞き、ナチュラリストの血が騒がない訳もなく勉強を放棄したのです。ネズミ程度ならば解剖経験もあるため、内臓には耐性があるつもりでした。しかし今回、目の前にいるイノシシによって僕は間違いに気付かされたのです。まず見た目。一本に繋がった内臓。これは医療系ドラマで予習バッチリですから平気です。次にニオイ。

獣臭さと内臓の臭いのコラボレーション。見た目に勝るとも劣らぬ臭いは、僕の度肝を抜いたのです。今回のセミナーでは、ニオイに限らず教科書では決して学べないことを数多く学ぶことが出来ました。僕は、これからも活動を続けたいと思いましたし、他のJrナチュラリストの皆さんも、もっとセミナーに来て多くの事を学んでほしいと思いました。



春一番の生き物観察と塾の会総会 3月13日

今年は例年になく雪の多く残るねいの里で、生き物観察会を行いました。参加者は20名、まずは春の使者ホクリクサンショウウオの生態を長谷川から紹介、卵囊と成体の観察をしました。次に園内を廻り春一番の生き物探しです。花はようやく咲き始めたマンサクのみ、その他は見当たらず、ちょっと寂しいフィールドです。代わりに動物の足跡が多くありキツネ・タヌキ?と資料を見ながら観察、途中クマでは?と意見の出る足跡も、水生庭苑ではヤマアカガエルの卵が無数にあり、成体を捕獲し、ちょっと挨拶。終了後は自然塾の会の総会を行い23年度の行事予定等を決定しました。

記: 長谷川 覚



お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。) 昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんでわいわい楽しく食べましょう。

5月 3日 (火) 祝日	6月 11日 (土)
○ 午前9時 ~ 12時 ・新緑の里山ハイキング 「古洞の森」から「ねいの里」まで新緑の里山をハイキングします。	○ 午前9時30分 ~ 11時 ・竹アンドン作り 6月19日のホテル鑑賞会用の竹アンドンを作ります。お昼は味噌汁を作る予定です。
参加者/定員なし	参加者/定員なし

参加希望者はねいの里までお申し込み下さい。

～ねいの里行事予定 案内～

- 5月15日 (日) 8:00 ~ 12:00
バードウォッチング 場所 野鳥の園・古洞池 (富山県・日鳥連 富山県支部 共催)
- 5月21日 (土) 9:00 ~ 11:00
海浜釣糸清掃 場所: 新湊漁港 (日鳥連 富山県支部 共催)
- 6月19日 (日) 19:00 ~ 20:30
囲炉裏とへイケボタル鑑賞 (自然塾の会 共催)

参加希望者はねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

4月 4日 ~ 5月13日 日鳥連富山県支部写真展
5月21日 ~ 6月20日 愛鳥ポスター展

■ お願い ■

- **生き物ふれあい自然塾の会 会員募集中**
皆さんのお知り合いで、ねいの里をご利用の方がおられましたら、自然塾の会への入会をお勧め下さい。ナチュラリスト駐車場の利用出来ます。また、「ねいの里」の情報もお送りします。
- **「生き物ふれあい自然塾の会」会費納入のお願い**
平成23年度の会費未納の方は、会費(1000円)納入よろしくお願いたします。
納入後 平成23年度会員証をお渡しします。
- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第21号
2011年 4月10日
生き物ふれあい自然塾



今日のふくろう先生は

早川 武彦 さん

(富山ふるさとマスター・富山県ナチュラリスト)



魅力ある自然博物館「ねいの里」

ねいの里は、富山市婦中町吉住地区の射水丘陵に、総面積13haの自然環境教育施設として、1981年(昭和56年)6月にオープンした。海拔140mのこの地は夏緑広葉高木の、コナラとヤマツツジ・アカマツ群集の標徴種である、アカマツを主体とした自然林の中にあり、「人間と全ての生き物との共生」を題目としている。そしてねいの里に来れば、自然のことはすぐ分かるという大層魅力的な場所となった。各施設と自然観察林が整備され、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、最近蔓延したイノシシと鳥類、各種昆虫、川魚等の生態を紹介する展示館、ホクリクサンショウウオ、モリアオガエル、ハッチョウトンボなどが繁殖している「森と水辺のビオトープ」も整備されている。特にホクリクサンショウウオの繁殖池は、国内最大の規模で、この池で生まれた個体は、生まれ故郷の池の水の匂いと付近の風景を覚えていて、3年程経過すると生まれ故郷の池に帰ってくるといわれている。

また、病気や怪我で保護されている鳥獣を收容し、手当をする富山鳥獣保護センターは、自然とマッチした色の建物で、同じ敷地に立っている。ここを訪れた人達に、收容されている生きた教材で説明すると県内に生息する鳥獣を良く理解できる。何時ぞやは、オシドリの姿を目の当たりにした来訪者が、長時間立ち止まって繁々と観察していた姿が今でも忘れられない。

コナラ・アカマツ主体の自然林の中には、快適な自然観察路が続き、上層木が、間伐により除かれた炭焼き窯付近には林床に降り注ぐ陽光が増した為か、植生が変わり、土壌微生物・地中小動物(朱鷺の好物・ミミズなど)の働きが活発になっている。これらの変化を確かめることは、自然解説の合間というものの私の楽しみになっている。

観察路のコース・ポイントでは、にわかクイズが楽しく、充実した気分になり魅力的である。樹木では、熟した実が、ジンの香り付けのなるネズミサシ、リンゴの原種を思わせるやや大きな実のなるオオウラジロノキ、半寄生で雌雄異株のビャクダン科のツクバネ、膝根(気根の一種)のラクウショウ、昔、油を含んだこの木を燃やして、早つけ木とした蔓性のマツブサが観察できる。また、国道359号線を境界として、頼成の森では良く見ることの出来る、ウコギ科のタカノツメ、そのほか雌木で、実の生ったチャボヒバ、イソノキ、ザイフリボクなど、草本ではモウセンゴケ、イチヤクソウ、エゾタンポポなどは、ねいの里では数は少ないが、フィールドで会うことが出来る。5月下旬にはホトトギス、クロツグミ、ホオジロ等が終日歌い、シオヤトンボ、アオイトトンボ、クロサナエ、等が飛ぶ。

自然に組み込まれた留まることを知らない輪廻転生が、生きとし生けるものに適用されて、多様性に満ちた、自然環境教育の殿堂「ねいの里」は永久に、魅力ある機能・情報を発揮・発信し続けると確信している。



ホクリクサンショウウオ

春の観察会



カタクリとギフチョウ

